令和 4 年度　卒業生アンケート（報告）

令和 5 年 4 月　就職・進路支援委員会

【調査概要】

・本学卒業生の就職定着率・離職率及びその原因等に関する調査・分析

・調査対象者：令和 3 年 3 月卒業者：310 名

→児教：195 名・福祉：9 名・食栄：39 名・教養：67 名

・調査期間：令和 5 年 2 月 1 日（水）～2 月 28 日（火）

・調査方法：「Forms」を使用した、Web アンケートによる調査

【調査結果】

1．回答数・回答率について

・回答数：56 件（児教：37 件・福祉：2 件・食栄：6 件・教養：11 件）

・回答率：18.1%（児教：19.0%・福祉：22.2%・食栄：15.4%・教養：13.4%）

2．回答結果について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

①現在の就労状況について

・新卒時就職先　：48 件（85.7%）・+20.5%

・転職先　：　6 件（10.7%）・▲11.0%

・フリーランス・個人事業主：　0 件（　0.0%）・±0.0%

・アルバイト・パート　：　1 件（　1.8%）・+1.8%

・学生　：　1 件（　1.8%）・▲2.5%

・専業主婦　：　0 件（　0.0%）・±0.0%

・無職　：　0 件（　0.0%）・▲4.3%

・その他　：　0 件（　0.0%）・▲4.3%

②新卒時の進路決定理由について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

（複数回答可→回答総数 126 件）

・業種・職種　：33 件（26.2%）・▲7.8%

・業務内容　：17 件（13.5%）・+ 3.5%

・給与・福利厚生：16 件（12.7%）・+ 3.3%

・勤務地　：30 件（23.8%）・▲0.2%

・社会貢献　：　0 件（　0.0%）・▲4.0%

・社風・企業文化：　9 件（　7.1%）・+ 3.7%

・スキルアップ　：　9 件（　7.1%）・+ 5.1%

・将来性　　：５件（ 4.0%）・▲2.0%
・特になし　　：３件（ 2.4%）・＋2.4%
・その他　　：４件（ 3.2%）・＋3.2%

③就職活動時の相談相手について・・・回答件数（比率）・対前年度比率
（複数回答可→回答総数 113 件）
・家族　　：31 件（27.4%）・▲5.3%
・友人　　：22 件（19.5%）・＋2.2%
・教員　　：28 件（24.8%）・▲0.2%
・キャリアセンター：25 件（22.1%）・▲1.0%
・特になし　　：６件（ 5.3%）・＋3.4%
・その他　　：１件（ 0.9%）・＋0.9%

④就職活動開始時期について・・・回答件数（比率）・対前年度比率
・１年前期（夏休み含む）　　：２件（ 3.6%）・▲ 5.1%
・１年後期（冬休み・春休み含む）：12 件（21.4%）・▲17.7%
・２年前期（夏休み含む）　　：29 件（51.8%）・＋ 4.0%
・２年後期（冬休み・春休み含む）：11 件（19.6%）・＋15.3%
・その他　　：２件（ 3.6%）・＋ 3.6%

⑤-1　新卒時就職先の離職について・・・回答件数（比率）・対前年度比率
・離職済み　：６件（10.7%）・▲15.4%
・継続就業中：50 件（89.3%）・＋15.4%

⑤-2　離職理由
・企業等都合：１件（16.7%）・＋16.7%
・自己都合　：４件（66.6%）・▲16.7%
・契約満了　：０件（ 0.0%）・± 0.0%
・解雇　　：０件（ 0.0%）・± 0.0%
・その他　　：１件（16.7%）・± 0.0%

⑤-3　離職者の在職期間
・１か月以内：２件（33.3%）・± 0.0%
・半年以内　：３件（50.0%）・+50.0%
・１年以内　：０件（ 0.0%）・▲50.0%
・１年以上　：１件（16.7%）・± 0.0%

⑤-4　自己都合退職者の退職理由（自由記述・回答数 4 件）

・求人内容と職種があまりにも違ったため
・体調を崩してしまい続けるのが困難になってしまった為
・適応障害

⑥卒業後の本学との関わりについて・・・回答件数（比率）・対前年度比率
（複数回答可→回答総数 56 件）

・教職員との面会　　：12 件（21.4%）・▲0.3%
・学校行事で来学　　：　0 件（ 0.0%）・± 0.0%
・証明書等の手続き　　：　2 件（ 3.6%）・▲0.7%
・電話・メール等での連絡：　2 件（ 3.6%）・▲0.7%
・特になし　　：38 件（67.8%）・+ 2.6%
・その他　　：　2 件（ 3.6%）・▲0.7%

⑦本学への希望及び後輩へのアドバイス等（自由記述・回答数 6 件）

・同じ学年で集まる機会がコロナ禍で減ってしまったので、是非集まって語る場があれば嬉しいです！
・周りに相談しながら就活頑張ってください！
・最短で教員になれ、卒業が早い分現場で実践を積める
・やりたいことや分からないことがあれば、自分から積極的に先生方やキャリアセンターの職員の方に方法を聞けば、丁寧に親身になって教えてくれるので、自分から動く事が大事だと思います。
・学生から社会人へのギャップに圧倒され最初はとても戸惑いました。私たちの時は実習がコロナで学内実習となり実際の現場でできなかったのですが、実際に現場での実習はとても大切だと感じました。また、働き出してから療育についてもっと学生の時に学べていたらと思うことがあります。現在とても療育に通う子も多く、これから繋げていく子どもへの保護者への伝え方や療育に通っている子の接し方などとても難しく悩む日々です。学生の間にもっと学べたらよかったなと思いました。
・求人票だけで分からないとこがたくさんあるので、実際に園に行って見学したり、質問をたくさんしたほうがいいです。
・できるだけインターンシップに行って欲しいです。もしも、インターンシップを導入していない会社があってもアポイントを取って見学に行って欲しいです。
・学生のうちにしかできないことを精一杯楽しんで、沢山経験してください。
・今を楽しんでください

【まとめ】

本調査は、令和 2 年度より開始し本年度が 3 回目の実施である。今年度の調査も前年度に引き続き、卒業時に登録したメールアドレスに回答フォームを送信する形式で実施した。回答数は 56 件で前年度より 33 件増、回答率は+11.4％となり一定の改善が見られた。

今年度の調査では、「就職活動開始時期の晩期化」及び「離職者の在職期間の短期化」が傾向として見られた。

まず「就職活動開始時期の晩期化」については、「④就職活動開始時期について」における「1 年後期（冬休み・春休み含む）」が対前年度▲17.7％に対し「2 年後期（冬休み・春休み含む）」が+15.3％となった。この要因としては、児童教育学科の回答数が対前年度 26 件増、回答率+13.0％と増加したことによるものと推察される。「2 年後期（冬休み・春休み含む）」の回答件数が教養学科の 0 件に対し、児童教育学科 8 件、生活科学科 3 件である点も前述の裏付けとなろう。実際に調査対象年度の児童教育学科の卒業生は、コロナ禍における実習スケジュールの大幅な変更等により就活のスケジュールも後倒しになるケースが多く見られた。

「離職者の在職期間の短期化」については、「⑤-3　離職者の在職期間」の「半年以内の離職」が対前年度+50.0％、「1 年以内の離職」が対前年度▲50.0％となっている。「半年以内の離職」の離職理由は、「体調不良」、「就業先都合」、「進路選択時のミスマッチ」と様々である。離職者の学科内訳は各学科 2 名と均等であり、学科における傾向は見られなかった。

調査対象の卒業生は、コロナ禍における就職活動を経験した世代であり、オンライン形式の採用活動が導入されるなど、活動方法が大きく変革した。今後の課題として、早期離職の抑制を目的とした、就職活動時のミスマッチを可能な限り解消するための取り組み（インターンシップへの参加・企業訪問の推奨等）を継続して推進する必要がある。

以上